

報 告 2

コミュニティバス「まめバス」事業について

「まめバス各路線の利用実績および第 4 クールの目標設定」、「「渡海神社前」停留所の移設」、「こども無料乗車実証実験」について、別紙のとおり報告します。

まめバス各路線の利用実績および第4クール目標設定について

1 各路線の利用実績(目標達成状況)

「まめバス」、「草津・栗東・守山くるとバス」については、クールごとに年間の目標利用者数を設定しており、第3クール(R2.10～R6.9)においては、「商店街循環線」、「宅屋線」が一度も目標を達成できなかった。

■目標利用者数と第3クール利用実績(R2.10～R6.9)

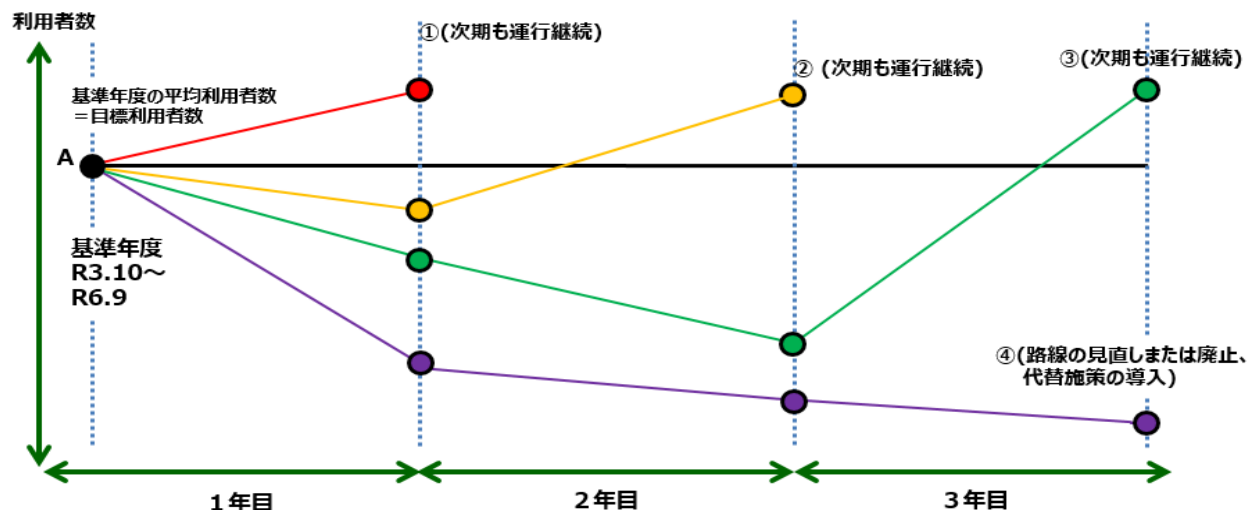
水色・・・目標達成 赤色・・・目標未達成

	商店街循環線	草津駅 医大線	山田線	笠縫東 常盤線	草津駅 下笠線	宅屋線	大宝 循環線
第3クール 目標利用者数	10,070	42,860	33,370	8,350	3,680	20,480	18,950
R2.10～R3.9 (1年目)	7,217	36,452	28,625	6,435	—	15,217	20,672
R3.10～R4.9 (2年目)	9,097	39,966	33,959	8,019	3,683	17,560	22,736
R4.10～R5.9 (3年目)	8,544	44,082	38,294	10,076	5,016	18,355	26,638
R5.10～R6.9 (4年目)	9,749	48,852	35,583	12,062	6,641	20,375	26,873
H30.10～R1.9 (コロナ前)	11,469	45,369	34,970	8,892	—	22,904	22,260

第3クール目標利用者数: 第2クールの年間平均利用者数(H29.10～R2.9)

■参考＜目標利用者数の考え方＞

目標利用者数	前クール期間(3年間)における各路線の利用実績の平均値を、次のクール(3年間)の目標利用者数とする。
継続・見直し 判断基準	○1クール期間中に1度でも目標を達成することができれば、次のクールも運行を継続 ○1クール期間中に1度でも目標を達成できなかった場合、「路線の見直しまたは廃止」、「代替施策の導入」を検討



◎『商店街循環線』(まめバス)の利用実績について

『商店街循環線』については、令和4年10月から東草津地域に延伸したことで利用者数が一時的に減少したことにより、目標利用者数は未達成となっているが、令和6年4月から東草津地域への延伸を取りやめ、運行ダイヤ等を見直した結果、利用者が増加傾向にある。

第4クール上半期の実績から、目標達成に必要な利用者数は1月あたり664人であり、現状の利用者で推移すれば、次期クールにおいて目標を達成できる見込みであることから、路線の廃止や見直しの検討は行わず、運行を継続する。

◇『商店街循環線』の利用者数

	第3クール				第4クール
	R2.10～R3.9 (1年目)	R3.10～R4.9 (2年目)	R4.10～R5.9 (3年目)	R5.10～R6.9 (4年目)	R6.10～R7.9 (1年目)
10月	792	813	670	735	1,128
11月	510	776	633	656	1,020
12月	516	857	644	647	1,022
1月	494	681	544	600	941
2月	507	519	655	661	877
3月	623	642	669	753	1,099
4月	561	636	678	772	664
5月	615	693	755	869	664
6月	628	915	829	875	664
7月	696	878	804	1,099	664
8月	686	867	782	1,013	664
9月	589	820	881	1,069	664
合計	7,217	9,097	8,544	9,749	10,070
目標値	10,070				

目標達成に必要な
利用者数

緑色…東草津地域に延伸した期間(R4.10～R6.3)

◎『宅屋線』(草津・栗東・守山くるとバス)の利用実績について

『宅屋線』については、第3クールにおいて目標を1度も達成できなかったが、4年目の目標値と実績値の差が100名程度であり、第3クール期間中の利用者数は増加傾向であることから、第3クールの目標値を次期目標値として設定し、草津市・栗東市・守山市の3市で路線の見直しを検討する。

◇『宅屋線』の利用者数

	第3クール				第4クール
	R2.10～R3.9 (1年目)	R3.10～R4.9 (2年目)	R4.10～R5.9 (3年目)	R5.10～R6.9 (4年目)	R6.10～R7.9 (1年目)
10月	1,356	1,508	1,457	1,631	2,229
11月	1,253	1,465	1,424	1,617	1,970
12月	1,326	1,525	1,489	1,584	1,768
1月	1,068	1,289	1,172	1,290	1,669
2月	1,125	1,118	1,280	1,488	1,723
3月	1,521	1,634	1,666	1,656	2,055
4月	1,287	1,381	1,403	1,782	1,511
5月	1,088	1,349	1,562	1,702	1,511
6月	1,306	1,672	1,752	1,782	1,511
7月	1,236	1,580	1,642	2,060	1,511
8月	1,277	1,467	1,713	2,006	1,511
9月	1,374	1,572	1,795	1,777	1,511
合計	15,217	17,560	18,355	20,375	20,480
目標値	20,480				

目標達成に
必要な利用者数

2 第4クール目標設定

第4クールにおける目標利用者数については、第3クール(R3.10～R6.9)における年間利用者数の平均値とする。

なお、商店街循環線と宅屋線については、前クール期間の目標値を引き続き採用する。

■第4クール目標利用者数(R6.10～R9.9)

	商店街 循環線	草津駅 医大線	山田線	笠縫東 常盤線	草津駅 下笠線	宅屋線	大宝 循環線
第3クール 目標利用者数	10,070	42,860	33,370	8,350	3,680	20,480	18,950
第4クール 目標利用者数	10,070	44,300	35,945	10,052	5,113	20,480	25,416
※第4クールの目標利用者数：赤字⇒第3クールの平均利用者数、黒字⇒第3クールの目標利用者数							
R3.10～R4.9 (2年目)	9,097	39,966	33,959	8,019	3,683	17,560	22,736
R4.10～R5.9 (3年目)	8,544	44,082	38,294	10,076	5,016	18,355	26,638
R5.10～R6.9 (4年目)	9,749	48,852	35,583	12,062	6,641	20,375	26,873
平均値 (2～5年目)	9,130	44,300	35,945	10,052	5,113	18,763	25,416

「渡海神社前」停留所の移設について

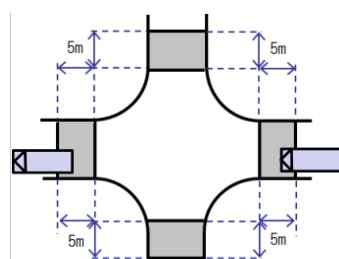
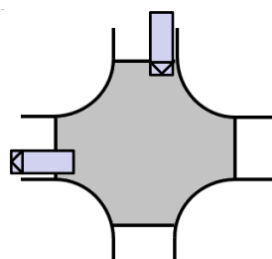
まめバス、まめタクの「渡海神社前」停留所については、隣接する道路の供用開始に伴い、停留所が交差点内に位置することになり、危険なバス停に該当することから、利用者や通行車両等の安全確保のため、停留所を移設しました。

【概要】

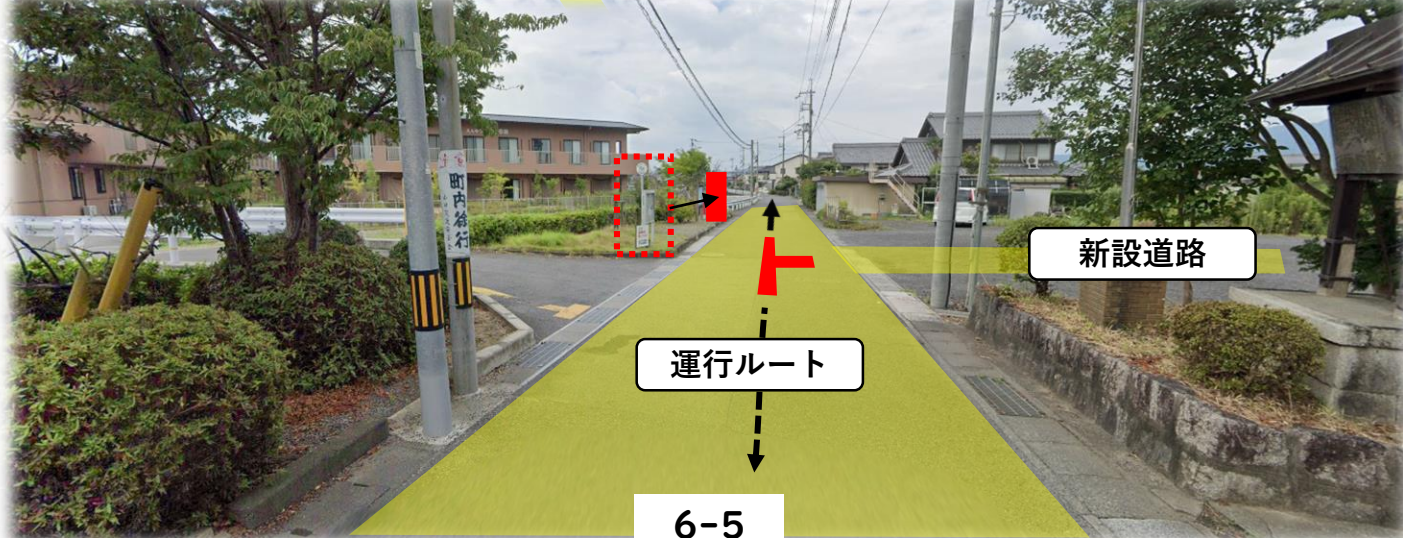
運行路線	まめバス「山田線」 まめタク「不動浜線」
移設日	令和7年5月12日

【危険なバス停の考え方】

- ①バスがバス停留所に停車した際に、交差点又は横断歩道にその車体がかかるバス停留所
- ②バスがバス停留所に停車した際に、交差点又は横断歩道の前後5メートルの範囲にその車体がかかるバス停留所



【位置図（山田学区）】



「こども（小学生以下）」 無料乗車実証実験について

公共交通の利用促進を図るため、草津市、栗東市、守山市が連携し、小学生の夏休み期間中において、コミュニティバスの運賃無料の対象を「幼児」から「小学生（100円・ICカード90円）」まで拡大、また、幼児2人までの無料対象の人数制限をなくす実証実験を行います。モビリティマネジメントの観点から小学生の皆さんへ公共交通であるバスの乗車機会を通じて慣れ親しんでもらう「きっかけ」づくりを行うとともに、保護者等にも乗車してもらうことで、新規利用者を掘り起こし、公共交通の利用促進、外出機会の創出等を図り、更なる地域公共交通の活性化等に取り組みます。

滋賀県内初
＜コミュニティバス＞

＜周知・啓発＞



- ・広報誌（7月号）
- ・停留所、車内掲載
- ・市ホームページ
- ・SNSの活用（LINE等）
- ・小学校で周知（WEB等）

＜他市事例＞



＜内 容＞

「こども」無料乗車実証実験	
開催日	夏季期間 (7月19日～8月30日)
対象者	小学生以下
対象	コミュニティバス
条件	保護者等の同伴



実証実験に併せたイベント

乗車スタンプ(利用促進)

アンケートによる効果調査

質問事項	属性	普段の移動手段
	目的地	外出時の消費額
	利用意向	利用のきっかけ

＜利用方法＞

(大人)

乗車

(小学生以下)

乗車

アンケート回答

降車

降車

運賃無料

運賃収入への影響

小学生の運賃収入はなくなるものの、保護者等からの運賃収入が見込めるため、収益は増加する。

＜今後の取り組み(案)＞

令和7年度

まめバス
くるっと

実証実験

令和8年度

まめバス
くるっと
民間事業者

拡大
予定

実証実験の検証・効果

新規利用者の増加

公共交通の利用促進

事業者

自治体

- ・運賃収入の増加
- ・運転手の確保
- ・路線の維持・確保
- ・安定経営

- ・公共交通の活性化
- ・健康づくり
- ・交通渋滞の緩和
- ・外出機会の創出

公共交通・地域の活性化の実現

実証実験の結果をもとに…

幼少期から公共交通に親しんでもらうため、コミュニティバスの無料乗車対象者のあり方等を検討する。

